

**菅野すが(須賀子)** 私生活を反省して社会主義に接近、激動の人生のなか<大逆事件>で絞首刑、獄中手記を書いた。

かんのすが

明治14年政変1881 = 大阪生れ。鉦山師管野義秀の長女。

京都の寺侍出身で大阪の巡査から投機的な鉦山師に転じた父の失敗続きで、東京・大分など各地を流浪し、

帝国憲法発布1889 = 8歳 :

帝国議事始 1890 = 9歳 :

大本教・・・1892 = 11歳 : 母が死去し、以後、酷薄な継母に虐待されながら育つ。

日清戦争始 1894 = 13歳 :

進学を断念したばかりでなく、

Bushidou・・・1899 = 18歳 : 父の事業の失敗の埋合せのため、東京深川の商家小宮福太郎と結婚したが、

教科書疑獄 1902 = 21歳 : 離婚、作家の宇田川文海に師事し、{大阪新報}の婦人記者となり、彼の妻のような生活を送る。\_私生活に対する反省からキリスト教に近づき、大阪婦人矯風会会長林歌子の知遇を得、

日比谷公園 1903 = 22歳 : \_大阪の演説会で近づきになった島田三郎から木下尚江を紹介され、その演説を聞いて感動したのが動機となって、社会主義運動に接近。

日露戦争始 1904 = 23歳 : \*\_婦人矯風会の大阪支部代表として上京、{平民社}に堺利彦を訪問、

日露戦争終 1905 = 24歳 :

満鉄発足・・・1906 = 25歳 : \_その紹介で紀州田辺の{牟婁新報}に入社、ここで荒畑寒村と知り合い、

韓国反日暴動 1907 = 26歳 : \_結婚。その後{毎日電報}の社会部記者となる。

アラク 創刊 1908 = 27歳 : \*\_荒畑と別居。赤旗事件にまきこまれて入獄。出獄後、幸徳秋水の経済的援助によって療養生活を続けるが、彼との間に恋愛問題がおこり、やがて同棲。

伊藤博文暗殺 1909 = 28歳 : \_幸徳らと{自由思想}を発行するも、発行禁止となり、発行人であった菅野は新聞紙条例違反として告発される。この頃、専制政府のシンボルである天皇に爆弾を投げつけようという計画が、宮下太吉・新村忠雄・菅野らの間に話し合われる。

韓国併合・・・1910 = 29歳 : \*\_監禁刑に服するため入獄直後、宮下の不注意から計画は未然に発覚して一斉検挙となった(大逆事件)。

大逆事件判決 1911 = 30歳 : \*\_幸徳らと共に大逆罪により死刑の判決を受け、東京監獄内で絞首台に上った。獄中手記「死出の道艸」には、彼女のはげしい闘志と温かい同志愛がみなぎっている。